

令和 7 年度 各児童館行事活動実績報告について

施設名	こまきこども未来館	資料	2-1
重点目標	未来リテラシーを育む		
<u><報告概要></u>			
・ 家や学校では体験できない多種多様な企画を数多く実施。 ・ 利用状況について、個人任意利用者数全体では幼児利用の減少がみられる一方で、小学生は前年度比 4% 増加の 2,957 人、中学生は前年度比 20% 増の 4,371 人増となり、小学生だけでなく中高生にとっても「居場所」として選ばれている。 ・ 中高生の居場所づくりと社会参画を意識した取り組みを進め、学生自らの関心や課題意識をもとに地域や社会へ働きかける活動を行い、自ら考え行動する力を育んだ。 ・ 未来館の特徴のひとつである、サポーター企業や活動団体との連携を通じたイベントを数多く実施し、イベントを通じてこども達に様々な職業や社会課題に触れる機会を創出するとともに、多様な価値観や社会との繋がりを学ぶ機会を創出。 ・ 今後も中高生を含めたすべてのこどもたちの居場所として、多様な企業や地域の皆さまと連携しながら、未来リテラシーを育む事業を展開していく。			
<u><活動事例></u>			
◆高校生 JUMP OUT！Project			
⇒ 高校生が自らの関心や課題意識をもとに地域や社会へ働きかける活動を行い、「自ら考え行動する力」を育む。			
◆こまき冒険スライム村			
⇒ 小学生から中学生までの実行委員が、企画から運営まで主体的に行う。			
◆未来の〇〇サミット			
⇒ 企業が提案する「未来のアイデア」をこどもたち自身が審査し、社会に対して興味を持ち意見を発信する機会を創出。			
◆ゆるっとここからデー			
⇒ 小児科医や産婦人科医の協力のもと、自分や他者の心と身体を大切にすることについて学ぶ包括的性教育を実施。学校や家庭では話しにくいテーマだからこそ、安心して学べる場を創出。			

令和7年度 各児童館行事活動実績報告について

施設名	小牧南児童館	資料	2-2
重点目標	All for Children! すべてはこどもたちの為に 繋がりやの輪～信頼関係の構築～		

<報告概要>

- ・南部コミュニティセンターとの複合施設として、こども達や保護者、地域との繋がりを大切にしながら安心して過ごせる居場所づくりを推進。
- ・こども会議やマンガ選挙を実施し、こども達が児童館運営に主体的に関わる機会を創出。自ら意見を発信し、その声が反映される経験を通じて主体性や当事者意識の醸成に努めた。
- ・利用者の声をもとに「ママたちのおしゃべりひろば」や「とにかく楽しく Let's Danse ♪」を実施。
- ・利用者の声を事業に繋げることで、保護者同士の交流やこども達の活動の場が広がり、新たなつながりや笑顔が生まれた。
- ・近隣の園や学校、地域企業、運営協議会等と連携した事業を実施し、地域全体でこども達を見守る環境づくり推進。
- ・中高生の居場所づくりでは、試行錯誤を重ねながら実施したことで、次年度の事業展開に繋がる学びを得た。
- ・今後もこども達、保護者、地域との繋がりをさらに深め、誰もが安心して集い、笑顔になれる児童館づくりを進めていく。

<活動事例>

◆こども会議/マンガ選挙

⇒児童館をより良くするため、こども達自身が意見を考え、発信できる機会を創出。「自分達の児童館」という認識を醸成するとともに、自分達の意見がどのように反映されるかを可視化し、意見表明の体験を通じて主体性を育んだ。

◆ママたちのおしゃべりひろば

⇒利用者の声から生まれた活動であり、保護者同士が気軽に交流し、子育ての悩みや思いを共有できる場づくりを創出。

◆とにかく楽しく Let's Danse ♪

⇒利用者からの声のほか、地域でダンスを習うこどもも多いことから始めた企画。実施後は、継続を望む声が多く、年間を通じた事業として定着。

令和7年度 各児童館行事活動実績報告について

施設名	小牧児童館	資料	2-3
重点目標	こどもが主役になれる児童館 遊びを通じて地域と繋がる		
<u><報告概要></u>			
・「こどもの居場所づくり」、「子育て支援」、「地域連携を中心とした事業」を展開。 ・こども達の意見を中心に「小学生タイム」を実施し、児童健全育成推進財団の「こども DO まんなかプロジェクト」に採択されるなど、こども主体の活動を推進した。 ・年齢別の広場活動を開催し、同年代の親子がつながる場を創出したことで、保護者も一緒にこども達と公園へ出かけたりお茶会をしたりなど、孤立を防ぎつつ、成長を共に喜べる場づくりをすることができた。 ・小学校区地域協議会への委員参加に加え、放課後こども教室へのアウトリーチ、学区のおまつりでのブース出展など地域活動と連携。 ・児童館を応援してくださる地域の方も増え、乳幼児親子向けのカフェの開催やイベント参加など、児童館を通じた地域との「つながり」を形成することができた。 ・今後もこどもたちの声を大切にしながら、誰もが安心して過ごせる居場所として、地域とともに成長する児童館づくりを進めていく。			
<u><活動事例></u>			
◆中高生タイム・中高生カフェ			
⇒開館時間の延長や簡単な調理で作れる軽食など、「食」を通じた交流機会を設け、中高生が安心して過ごせる居場所づくりを推進。			
◆小学生タイム			
⇒中高生タイムの存在を知った小学生たちからの熱い要望を受け、夏休み期間の休館日を利用してこども達を主役に企画し、実行した。			
◆キッチンカーこども食堂			
⇒こども食堂実施事業者の協力もあり継続して実施することができ、食の支援だけでなく、自然と交流ができる居場所の提供ができた。			
◆つながる防災プロジェクト			
⇒炊き出しや段ボールキャンプ、防災マルシェを実施し、こどもたちが地域や企業、NPOとともに防災について学び考える機会を提供。			

令和7年度 各児童館行事活動実績報告について

施設名	西部児童館	資料	2-4
重点目標	笑顔になれる場所～Smiles for All～来たくなる児童館こどもが創る「こどもの居場所」		
<u><報告概要></u>			
・西部コミュニティセンターとの併設館として、地域児童の健全育成と支援に取り組むとともに、近隣住民からも利用される児童館として、多くの親子やこども達に居場所を提供。 ・まずは「児童館に足を運んでもらう」ことを目標に、児童館事業の原点である「遊び」を見つめ直した。 ・「大人も楽しめる」を意識し、親子で楽しめる環境づくりや各種イベントの充実に取り組んだ。 ・「楽しかった」という体験は新たな興味や関心を生み自己肯定感やレジリエンス（しなやかに立ち直る力）に繋がるため、多くの体験機会を提供。 ・児童館を知らないこども達にも児童館の存在を知ってもらえるように、地域連携やPR活動に力を入れ来館のきっかけづくりを行った。 ・市内外問わず多くの方がイベントに参加してくださる一方で、日常での利用が伸び悩むなど課題も見えてきた。 ・児童館が「児童福祉施設」であることを認識していただき、こどもの成長を見守る大切さや児童館の役割を伝えていきたい。			
<u><活動事例></u>			
◆体験型学習事業			
⇒星空観望会や館長自ら行う「なんでも解体団」、着付け教室、アイスクリーム・バター作りを実施。			
◆こども企画事業			
⇒お化け屋敷やドッジボール大会などをこども達が企画・運営し、意見表明や主体的な活動の機会を創出。			
◆ナイト児童館			
⇒防災体験と花火大会を組み合わせ、楽しみながら防災への意識を高める機会を創出。			
◆地域連携・協働講座			
⇒地域企業やボランティアと連携した食育講座やコンサートの開催など楽しみながら学べる機会を創出。			

令和7年度 各児童館行事活動実績報告について

施設名	味岡児童館	資料	2-5
重点目標	みんなでつくる！ぱるもあじおか～児童館を楽しもう！～		
<u><報告概要></u>			
・こども、保護者、地域が主体的に関わる児童館づくりを推進。 ・「こども縁日」、「クリスマスゲームを楽しもう」、「かんまつり」などの各季節の主要行事において、こども達が企画や運営に参加し、自ら考え行動する機会を創出。 ・スタッフ活動や意見ボックスの設置を通じて、こども達の意見やアイデアを児童館運営に反映し、主体的に参画できる環境づくりを進めた。 ・味岡児童館の特徴である「かまど」を活用した企画では、地域の子ども会をはじめ、外国籍の家族やジュニアスタッフなど幅広い参加を得ながら交流を深めるなど、児童館ならではの地域コミュニティの形成につながった。 ・日常的な関わりを大切にしながらこどもや保護者の声に寄り添い、安心して過ごせる居場所づくりを実施。 ・大型児童センターとして、中高生活動の充実を図りながら、今後も多世代交流や利用者のニーズを取り入れた事業を展開し、地域とともに育つ児童館づくりを進めていく。			
<u><活動事例></u>			
◆アオハルナイト（中高生居場所づくり）			
⇒中高生からの要望を受け、中高生居場所づくりを定期開催から毎日開催へと変更。安心して交流や相談ができる居場所として定着。			
◆ぱるもあDASH			
⇒館庭などの児童館の環境整備を行い、施設を大切にする心や地域の財産を守る意識を醸成。			
◆かまど名人等のサポーター事業・餅つき職員の達人養成			
⇒地域サポーターの協力を得ながら伝統的な体験活動を実施、世代を越えた交流や地域文化の継承を推進。			
◆スタッフ活動			
⇒小学生以上を対象としたミニ職場体験を実施し、責任感や協働する力を育む機会を提供。			

令和7年度 各児童館行事活動実績報告について

施設名	篠岡児童館	資料	2-6
重点目標	「児童館あそぼう・楽しもう」「地域と共に育ち合う児童館」		
<報告概要> ・来館者一人ひとりとの対話を大切にし、こどもや保護者の意見を、遊びや活動、ルールづくりに反映することで、主体的に関わることのできる児童館づくりに取り組んだ。 ・新規事業として「こどもマルシェ」を開催し、商品づくりや販売、接客などをこどもたち自身が行うことで、社会性や創意工夫を学ぶ機会を創出した。 ・中高生の居場所づくりとして「しのおかラウンジ」を毎週実施し、自由に過ごし、交流ができる環境を整えることで、新たな利用者の獲得や継続利用につなげた。 ・今後も利用者の声を大切にしながら、こどもたちが安心して過ごし、主体的に活動できる児童館を目指して地域とともに歩んでいく。 <活動事例> ◆こどもマルシェ（新規事業） ⇒こどもたちがお店づくりや販売活動を主体的に行い、接客や金銭のやり取りなど、実践的な経験・体験を通じて社会性を育成する。 ◆地域連携事業 ⇒おやじの会や児童館サポーター、地域ボランティア、近隣中学校と連携し、読み聞かせや畑づくり、バルーンアートなど多種多様な活動を実施し、地域全体でこども達の成長を支える環境づくりに繋げた。 ◆クリスマス会 ⇒小学生運営スタッフが企画から準備、当日の司会進行や裏方仕事など、イベントの大半をこども達が担った。仲間と協力しながら行事を作り上げる機会を創出し、主体性や挑戦する意欲を育む体験につなげた。 ◆シャボン玉パフォーマンス/大道仮説実験 ⇒保護者の声をきっかけに親子で楽しみながら参加できる交流の場の創出や、化学への興味や探求心を育む体験型事業を開催し、多くの親子が楽しみながら学べる機会を提供。			

令和7年度 各児童館行事活動実績報告について

施設名	大城児童館	資料	2-7
重点目標	楽しさのシェアリング		

<報告概要>

- ・利用者の傾向としては、小学校高学年の利用が多く、館庭での集団遊びや室内での卓球、ピアノ、工作など通じて安心して過ごせる居場所として活用された。
- ・学習目的でも利用されており、習い事の勉強や宿題に取り組む姿も見られるなど、遊びと学びの両面を支える環境づくりを行った。
- ・一時預かり事業では、マンツーマンによる預かり体制を継続し、安全・安心を最優先としながら、こどもだけでなく保護者にも寄り添った支援を実施した。
- ・外国籍家庭や定期利用者など多様なニーズに対応するとともに、予約方法を工夫することで新規利用者の増加につなげ、多くの家庭に保育サービスを提供した。
- ・今後もこどもの安全と安心を第一に、地域とのつながりを大切にしながら、こどもと保護者に寄り添う児童館運営を進めていく。

<活動事例>

◆こどもマルシェ

⇒こどもたちがお店づくりや販売活動を主体的に行い、接客や金銭のやり取りなど実践的な経験を通じて社会性を育成。

◆もちつき

⇒恒例行事のひとつであり、大草地区の地域住民の協力を経て実施した。伝統文化の継承の場であると同時に、多世代交流の場でもある。

◆体験交流事業

⇒おやじの会の協力を経て、大工体験会の開催やフクロウとの触れ合い会など、多様な活動体験を通じてこどもたちの興味や学びを広げる機会を提供。

◆わらべかんまつり

⇒地域の多くの団体から協力を得ながら事業を開催。地域のこどもから大人までが楽しみながら参加し、交流できる地域参加型事業として実施した。

令和7年度 各児童館行事活動実績報告について

施設名	北里児童館	資料	2-8
重点目標	みんなが主役！心のビタミンC～たのしい・うれしい・私らしい～		
<報告概要> ・来館者一人ひとりの思いや「やってみたい」という気持ちを大切にしながら、誰もが自分らしく過ごせる児童館づくりを推進。 ・付箋による意見聴取を継続して実施し、利用者の声を取り入れた講座や活動を企画することで、こどもたちの興味や関心に応じた事業を展開した。 ・これまで実施していなかった屋外活動にも取り組み、市民センターと連携しながら活動の幅を広げ、より魅力的で満足度の高い事業展開を目指した。 ・来館者ニーズの変化を捉えながら、一人ひとりにとっての「私らしい」を大切に、安心して過ごせる居場所づくりと利用者主体の運営に努めた。 ・今後も利用者の声に耳を傾けながら、こどもも保護者も自分らしく過ごせる児童館づくりを進めていく。 <活動事例> ◆工作講座の充実 ⇒申込不要で参加できる講座を実施するなど、参加しやすい工夫を取り入れることでより多くのこども達が気軽に参加できる環境を整えた。 ◆乳児親子向け事業の充実 ⇒父親の育児参加を促進するプログラムを充実させるとともに、利用者の要望を受け、ハイハイレースを開催するなど、親子が楽しく交流できる機会を数多く提供した。 ◆シールづくり講座 ⇒利用者からの要望をもとに実施した人気講座として、多くのこども達が創作活動に参加。 ◆やりたいこと意見募集 ⇒付箋を活用してこども達からの児童館に対する声を集め、講座や活動内容に反映させることで利用者主体の児童館運営を推進した。			